



教育目標：自立 敬愛 精励  
ようがの学び舎 舎訓 責任 信頼 誇り



# 用賀中だより

～生徒が主人公である学校、地域と共に歩む学校～

学校だより10月号 令和7年10月吉日  
ようがの学び舎 世田谷区立用賀中学校  
校長 毛利 慎治

(スマホでも読みやすくなるよう、レイアウトを試行しています)

「誰もが安心して過ごせる学校を目指して」

～インクルーシブ教育研修と講演会～

ようがの学び舎 世田谷区立用賀中学校

校長 毛利 慎治

秋の深まりとともに、朝夕は涼しさを感じる季節となりました。校舎の窓を開けると、合唱コンクールを前に練習に励む生徒たちの歌声が校庭に響き渡り、澄んだ秋空に吸い込まれていきます。仲間と声を合わせ、一つの音楽をつくりあげる姿は、互いを認め合い支え合うことの大切さを象徴しているように思います。

用賀中学校では「インクルーシブ教育」について学ぶ機会が続きました。9月上旬に、教員対象の校内研修を実施し、「障害とは何か、障害はどこにあるのか」をテーマに学びました。障害は個人の中にあるのではなく、社会や環境の側にある——つまり周囲の理解や仕組み次第で軽くも重くなるという考え方です。教員一人一人に深く響き、学校は誰もが安心して過ごせる場所でありたいという思いを改めて感じる機会となりました。

そして、先日には、東洋大学 一木玲子先生をお招きし、生徒対象のインクルーシブ教育講演会を開催しました。生徒もまた、具体的な事例や映像を通じて「誰もが安心して過ごせる社会」の大切さを学びました。

ここで改めて、「インクルーシブ」という言葉の意味を紹介します。「インクルーシブ」とは、英語で「包括的な」「すべてを含む」という意味で、「誰も排除せず、すべての人を受け入れる」という考え方を表します。

つまり、障害のある人も、外国から来た人も、考え方が違う人も、年齢の違う人も、すべての人が尊重され、安心して過ごせる環境をつ

くること。それが「インクルーシブ教育」の目標なのです。

そして、今回の研修会や講演会を聞いて思い出したことがあります。それは、十年ほど前に旅行で甲子園球場を訪れたときのことです。阪神タイガース対巨人の試合を観戦し、当然ながら私は巨人ファンとしてビジター側に座りました。試合後、興味本位と少し怖いもの見たさもあって阪神ファン御用達のお店に立ち寄ったのですが、その場の雰囲気に圧倒され、強い居心地の悪さを感じ、早々に店を出てしまったことがあります。ほんの一時のことでしたが、「自分はここに受け入れられていないのではないか」と感じる不安は今でも忘れられません。

一木先生のお話の中でも、まさにそれと重なるエピソードが紹介されました。数年前、甲子園球場の改修工事の際に寄せられた要望の中に、車椅子の少年の声があったそうです。甲子園には当時、ビジター側にしか車椅子席がなく、阪神ファンの車椅子利用者は否応なく対戦相手側に座らざるを得ませんでした。少年は「自分もタイガースファンとして、同じ応援席で一緒に盛り上がりたい」と訴えたのです。

特別に隔てられるのではなく、同じ空間でともに楽しみたい——その願いは、私自身が感じた「居場所がない」という思いと共鳴し、そして何よりインクルーシブ教育の本質を端的に示していると感じます。

講演を聞いた生徒たちは、「障害は人の中にあるのではなく環境にあるという考えに驚いた」「違いを否定せずに認め合うことが自分にもできると思った」「自分たちの学校がもっと安心できる場になるようにしたい」といった感想を寄せていました。自分の生活と結びつけて考える姿勢が見られたことは、大きな成長の証といえます。

秋の校舎に響く合唱練習の歌声のように、生徒も教員も地域も声を重ね合い、互いを認め合いながら共に歩んでいくこと——それこそがインクルーシブ教育の目指す姿です。用賀中学校は今後も、誰もが安心して過ごせる学校づくりを進めてまいります。

## 1年生 いじめについて考えました。

9月25日に、湘南DVサポートセンターというNPO法人機関より瀧田 信之様を講師にお招きし、いじめについて考える講座を開きました。

講演の中では、いじめに遭うと人は自分を守ろうとする心の働きが起き、その場では平気な顔をしたり平静を装ったりするということを学びました。しかし、心は当然傷つき、家に帰ったり一人になつたりしたときに大きな苦しみや悲しみが押し寄せるということになるのだそうです。

みなさんも日常の友達との関わりの中で、「いじり」や「あそび」と言って相手の心や体に負担をかけてしまっていないか、あらためて見直しをしてみましょう。

さらに私達が目指していくのは、「いじめがない」ことに加えて、「共に過ごすことで、よりよく生活し、よりよく学習できる」という環境ですね。

生徒は瀧田さんへのお礼状として学びの振り返りをしましたので、紹介いたします。

最初は、浴衣は自分にとって身近なものではないと思っていたのですが、着付けの体験を通して自分たちの身近に浴衣という日本の一つの文化は存在しているということがわかりました。浴衣を一人で着ることは難しいことでしたが、講師の人たちや友達が丁寧に教えてくれたおかげで奇麗な状態で写真撮影をすることができました。

これからは浴衣という日本の一つの文化を身近なものだと思い、その文化を大切にしていきたいです。



## 2年生、職場体験を行いました。

9月24日(水)～26(金)の3日間、2年生は職場体験を行いました。この体験学習に向けての準備は7月から進めていました。個々に調べたい職業を決め、レポートにまとめる学習や、マナーについて意味を考えたり練習をしたりする講習を校内で行いました。

9月からはいよいよ体験先の決定をし、訪問する事業所への一人一人の電話連絡やグループでの事前訪問を行いました。

このように一つずつステップを踏むたびに、生徒の「社会観」「勤労観」が育つといった様子です。

24～26日には2年の担任、副担任みんなが各事業所に行って生徒の様子を見てきましたが、職員室に戻ると「○○さん、あんなにコミュニケーション力があったんだ」「□□さん、とってもいい笑顔で園児たちと触れ合っていたよ」「△△さんたち、丁寧な接客で礼の姿勢もすごくよかったです」と、普段の授業ではなかなか見られないよさが發揮された様子が伝わってきました。

これはまさに「非認知能力」の伸びが見られた姿と言えるのではではないでしょうか。この成果にはもちろん生徒自身の学習や準備による成長もありますし、町の皆様、各事業所の皆様のご指導・ご支援があったからこそその生徒の成長だと思います。生徒たちはきっとこれからこの町やさまざまな事業所を、これまでと違った視点で見ることができるのでないかと思います。

まとめとして、生徒一人ひとりが体験した事業所へのお礼状として学びの振り返りをまとめました。いくつかを紹介いたします。



## 2年生 和装着付け体験を行いました。

9月30日に、「きもの専門店まるやま」より講師をお招きし、2年生で浴衣の着付け体験を行いました。

写真のように、講師の方に教わりながら、「自分で着る」という体験が達成感や自己肯定感につながり、家庭科として衣服の機能を学ぶことや、日本の文化に肌で触れる貴重な体験ができました。

生徒の振り返りを紹介いたします。

○空が澄み清々しい秋を感じる頃となりました。皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

先日は、ご多用の中、私たちの職場体験学習のためにお時間をいただき、まことにありがとうございました。

私がこの三日間で学んだことは、物事の優先順位を決めることです。従業員の人数がとても少ないので行うべき作業を終わらせるというのは大変だということを実感しました。青果、精肉、鮮魚、グロサリー、お惣菜、レジ担当など、たくさんの仕事がある中、全ての仕事をこなし、時間通りに終わらせるためには様々な工夫が必要でした。そんな中、どんなに忙しくても、「いらっしゃいませ」という声かけを笑顔で行っている姿がとても印象に残りました。

今回の職場体験学習を過して学んだことを、これから学校生活でも生かしていきたいです。

三日間、本当にお世話になりました。お身体を大事になさってこれからもますます活躍ください。

○秋風が吹き渡る季節となりました。皆さまにおかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

先日は、ご多用の中、私たちの職場体験のためにお時間をいただき、まことにありがとうございました。

三日間の職業体験では保育の世界について学ぶことも出来ましたが、保育の世界を含めた「働く」ということを知りました。

働くなかで「自分にはこの仕事は合わないかも」と思うこともあるかもしれないけれど、すぐにあきらめるのではなく、何年も続けることが大切だと皆さまの小さな子と懸命に向き合う姿や言葉から気付きました。始めは緊張から肩の力が入っていましたが、皆さまの自然体な姿からすぐに緊張がほぐれました。「おつかれさまです」などのあいさつでは、自分も社会人の一員になれたと思うことが出来ました。雰囲気作りありがとうございました。おいしい給食ありがとうございました。おかげで午後もハツラツとがんばることが出来ました。

今回の職業体験で学んだことをからの学校生活でも、生かしていきます。

長いようで短い三日間でしたが、実り多い体験となりました。

本当にありがとうございました。



### 3年生、高校の先生の話を聞きました。

9月26日(金)に、

都立泊江高等学校 主任教諭 高橋 龍太朗先生、私立駒場学園高等学校 入試部長 山本 和美先生にご来校いただき、高校に入るため、そして入った後の学びなどについて、講演をしていただきました。



会のねらいは、次の3点です。

- 高等学校の特色(学科・コース)や受験(検)方法への興味、関心を高める
- 主体的に進路を選択するきっかけとする
- 今後の学習(面接・小論文なども含めて)を計画的に進めることができるようになります

会を終え、生徒はお礼状という形で学びを振り返りました。いくつかを紹介いたします。

○先日は、私たちのためにご講話いただきありがとうございました。私立の高校のことや駒場学園のことについて詳しく説明してくださいましたおかげで、私立高校に興味を持つことができました。生徒が主となっている委員会のことや生徒がネクタイのデザインをしていることに驚きつつ、駒場学園の魅力の1つなのだろうと思いました。生徒が作っていっていると感じさせられる学校に行きたいと考えているので、お話を聞き、選択が広がるのを感じることができました。様々な学校に興味を持ち、しっかりと調べて高校を決めようと思います。貴重な機会をありがとうございました。

○ご多用の中わざわざ用質中まで来て、泊江高等学校の説明をしていただき、ありがとうございました。お話の中で私は、短期交換留学にとても興味を持ちました。私はあまりホームステイについて良い印象がなかったのですが、生徒の皆さんのお話を見て、とても良い経験ができるのだと気づきました。この留学は、泊江高等学校だからできる体験であり、自分も実際にやってみたいなど感じることができました。また、パンフレットを見て、設備が整っていて、広い体育館や、一つ一つ

が多く、泊江高等学校に行きたいと思うことができました。短い時間でしたが、説明をしてください、ありがとうございました。

## インクルーシブ（教育）について、学びを深めました。

世田谷区では「世田谷区教育大綱」にもとづいて、令和7年3月より「せたがやインクルーシブ教育ガイドライン」が策定されました。その「インクルーシブ」が指し示す考え方や動き方、環境整備などについて、9月10日（水）に教職員研修を行い、10月3日（金）には生徒（2年生）を対象としての講演会を行いました。

講師には東洋大学 人間科学総合研究所  
客員研究員 一木 玲子 先生をお招きしました。  
また、他のファシリテーターの方もご来校いただき、  
生徒が話しやすく、考えが深まるように展開していただきました。

以下に写真と、生徒の振り返りを紹介いたします。

○「障害」の世界が広がりました。今まで障害は自分には関係のないことだと思っていた「障害＝周りの人の手助けが必要な人」というイメージと結びつけていました。しかし、今回の講座を通じて、社会が障害で溢れていると知り、とっても住みにくい社会だなと思いました。これからは障害をもっと自分ごととして考え、障害のある方達が当たり前にみんなと同じような社会で過ごせるように、身近なところから取り組んでいきたいと思いました。貴重なお話ありがとうございました。

○今日は私たちのために用賀中まで来てください、ありがとうございました。

私たちは今日たくさんのこと学びました。

私が印象に残ったことは、障害とは個人の問題ではなく、社会の問題であることです。社会的障壁が多い人も苦労しない社会を創っていかなければいいなと思いました。

今日考えた自分が明日からできることをしっかりと実行して、その社会創りに少しでも私たち中学生が協力していきたいです。



## 区陸、選手が精励しました。

10月2日に、選手が区陸（第75回世田谷区立中学校陸上競技大会）に出場し、精励しました。



## 各部活動等の表彰です。

日々の精励、大変素晴らしいです！（敬称略）

- ◆卓球 世田谷区中学校秋季研修大会  
1年男子シングルの部  
第2位 T.S
- ◆世田谷区立中学校陸上競技大会（区陸）  
女子中学1年 100m  
第3位 14秒59 S.R  
男子共通 1500m  
第5位 4分28秒92 S.K  
男子共通 走幅跳  
第4位 5m47 Y.Y  
男子共通 走高跳  
第1位 1m65 H.S  
第5位 1m50 K.S  
女子共通 4×100m  
第8位 O.N S.K S.A M.A

## <10月の主な予定>

2日（木）区陸上競技大会

3日（金）服装を考える日

インクルーシブ教育講演会

6日（月）教育実習始（～24日）

（体育科 加藤先生 指導：鳴島先生）

7日（火）全校朝礼（8:25開始）

8日（水）移動教室事前検診

9日（木）避難訓練

### 13日（月）スポーツの日

14日（火）生徒会朝礼（8:25開始）

17日（金）合唱コンクール

23日（木）第2回進路説明会

28日（火）進路面談（3年）（～31日）

29日（水）河口湖移動教室（1年）（～31日）